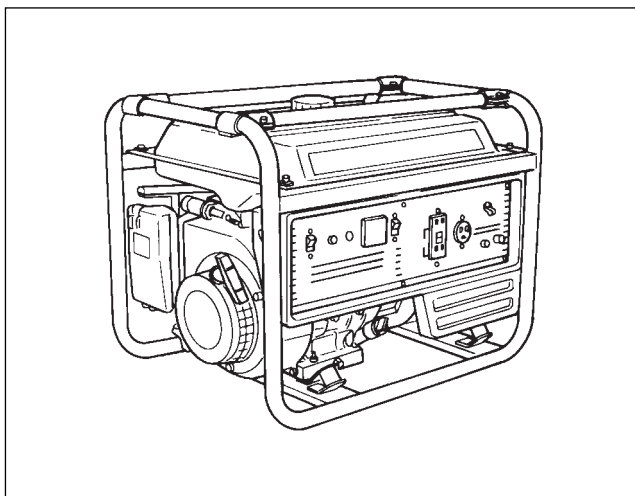


三菱携帯発電機

MITSUBISHI GENERATOR

MGEシリーズ MGE1501/MGE2501/MGE3300/MGE4100/MGE5000/MGE5800

取扱説明書



ご使用の前に、必ず取扱説明書、本体ラベルをお読みになり、安全に注意してお使いください。

はじめに

三菱発電機をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、本機の正しい取り扱い方法と簡単な点検・整備について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
安全な運転、および本機の性能を十分に発揮させるために、ご使用前には必ず本書をよくお読みいただき、ご使用時には携帯していただきますようお願い申し上げます。

本取扱説明書では正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を次のシンボルマークで表示してあります。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合。

⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合。

要 点

正しい操作方法や点検整備上のポイントを示し、取り扱いを誤ると、本機やその他のものが損傷する可能性がある場合。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合があります。
- 保証書はよくお読みいただきお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、不明な点や不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず本書を添付してください。

目次

安全にお使いいただくために	P 1
主要諸元	P 3
重要ラベル	P 5
各部の名称	P 6
各部の取り扱い	P 7
始業点検	P10
正しい運転操作	P13
やさしい点検・整備	P18
定期点検と長期保管	P22
故障診断	P23
配線図	P24

安全にお使いいただくために－ 1

- 運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および本機に貼付されているラベル全てをよく読み正しくご使用ください。本機の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習読してからご使用ください。

⚠ 警告

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、換気の悪い場所で使用しないでください。
排気ガス中には有害成分が含まれていますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所、建物や遮へい物で風通しの悪い場所で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中、使用直後はマフラ部が熱くなっています。マフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や本機の故障、または火災や人身事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で本機を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。
- 本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに渡してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から1メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し換気の良い場所で行なってください。燃料は、引火しやすく爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、燃料はこぼさないように注意してください。こぼれた燃料はきれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

安全にお使いいただくために－2

⚠ 注意

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、本機の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 感電のおそれあり、本機のアース端子より大地にアースをしてください。
- 火災のおそれあり、本機の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。
- 発電機の使用に際しては、各種法律や規制があります。労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などを遵守してください。

将来、本機を廃棄される場合および廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げの販売店もしくはサービス店にご相談ください。

主要諸元－ 1

項目		名称	MGE1501		MGE2501		MGE3300	
発電機	形 式		2 極回転界磁形単相交流発電機					
	励 磁 方 式		自己励磁式					
	電 圧 調 整 方 式		コンデンサー補償式					
	交 流	定 格 周 波 数 Hz	50	60	50	60	50	60
		定 格 出 力 kVA	1.2	1.5	2.2	2.5	2.8	3.3
		定 格 電 圧 V	100					
		定 格 電 流 A	12	15	22	25	28	33
		力 率	1.0					
	直 流	定 格 出 力 W	—				100	
		定 格 電 圧 V	—				12	
		定 格 電 流 A	—				8.3	
	出力端子	交 流	2-アース式コンセント (15A)				2-アース式コンセント(15A) 1-ツイストロック式コンセント(30A)	
		直 流	—				1-海式ターミナル	
	交流／直流過電流保護装置			サーキットプロテクタ				
エンジン	名 称		GM132PN		GM182PN		GM291PN	
	形 式		空冷4サイクルOHV ガソリンエンジン					
	総 排 気 量 cm ³		126		181		296	
	最 大 出 力 kW		2.9		4.4		5.9	
	使 用 燃 料		自動車用無鉛ガソリン					
	燃料タンク容量 (赤レベル) L		11				18	
	定格連続運転時間 (赤レベル) h		12	10	7.6	6.4	9	8
	使 用 潤 滑 油		API分類SE級以上 (SAE10W-30)					
	潤 滑 油 容 量 L		0.6				1.2	
	点 火 方 式		トランジスタ方式マグネット点火					
	始 動 方 式		リコイル式					
他	寸法 (全長×全幅×全高) mm		564 × 422 × 440				628 × 495 × 495	
	乾 燥 重 量 kg		40		45		68	

主要諸元- 2

項目		名称	MGE4100		MGE5000		MGE5800		
発電機	形 式	2 極回転界磁形単相交流発電機							
	励 磁 方 式	自己励磁式							
	電 圧 調 整 方 式	コンデンサー補償式							
	交 流	定 格 周 波 数 Hz	50	60	50	60	50	60	
		定 格 出 力 kVA	3.3	4.1	4.2	5.0	5.1	5.8	
		定 格 電 圧 V	100						
		定 格 電 流 A	33	41	42	50	51	58	
		力 率	1.0						
	直 流	定 格 出 力 W	100						
		定 格 電 圧 V	12						
		定 格 電 流 A	8.3						
	出力端子	交 流	2-アース式コンセント(15A)、1-ツイストロック式コンセント(30A)						
直 流		1-海式ターミナル							
交流／直流過電流保護装置		サーキットプロテクタ							
エンジン	名 称	GM301PN		GM401PN		GM401PN			
	形 式	空冷4サイクルOHV ガソリンエンジン							
	総 排 気 量 cm³	296		391		391			
	最 大 出 力 kW	7.4		9.6		9.6			
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン							
	燃料タンク容量(赤レベル) L	18							
	ジ	定格連続運転時間(赤レベル) h	8.5	7	7	6	6	5.5	
	ン	使 用 潤 滑 油	API分類SE 級以上 (SAE10W-30)						
		潤 滑 油 容 量 L	1.2						
		点 火 方 式	トランジスタ方式マグネット点火						
始 動 方 式		リコイル式							
他	寸法(全長×全幅×全高) mm	628×495×495			684×500×500				
	乾 燥 重 量 kg	70			75		78		

重要ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本体に貼付されているラベルを良く読み正しくご使用下さい。

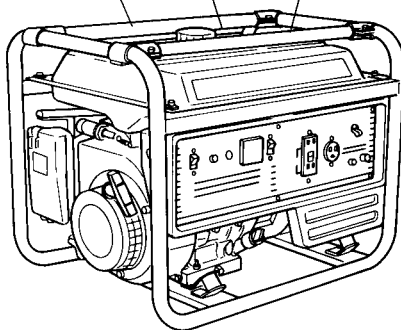
要 点

ラベルは良く見えるように、常に手入れを行い、汚れたりはがれたりした場合には販売店にご相談の上新品と交換してください。

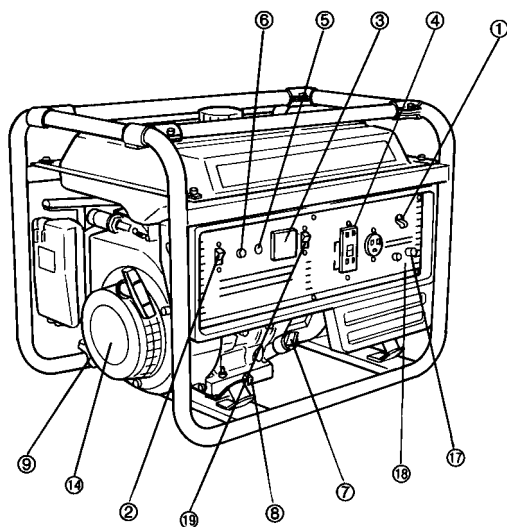
⚠ 注 意	
	高温注意 KYT020001970
	● やけどのおそれあり
	● マフラーにさわるな。

⚠ 注 意	
	高電圧注意 KYT020001960
	● 感電のおそれあり。
	● スパークプラグにさわるな。

⚠ 危 険		KYT020001680
	排気ガス注意	● 排気ガス中毒のおそれあり。 ● 排気の悪い所での使用禁止。
	感電注意	● 感電のおそれあり ● ぬれた手でさわらないこと。
⚠ 注 意		
	火気厳禁	● 火災の恐れあり。
	雨中使用禁止	● 給油時エンジンを停止のこと ● 可燃物を近づけないこと ● 規定レベル以上燃料を入れないこと
	屋内配線接続禁止	
 無鉛ガソリン		



各部の名称



①交流ノーヒューズブレーカー

②エンジンスイッチ

③電圧計

④交流コンセント

⑤パイロットランプ

⑥オイル警告灯 (オプション)

⑦オイル給油キャップ

⑧オイルドレンプラグ

⑨燃料コック

⑩エアークリーナ

⑪スパークプラグ

⑫タンクキャンプ

⑬チョークレバー

⑭リコイルスタータ

⑮アース端子

⑯マフラー

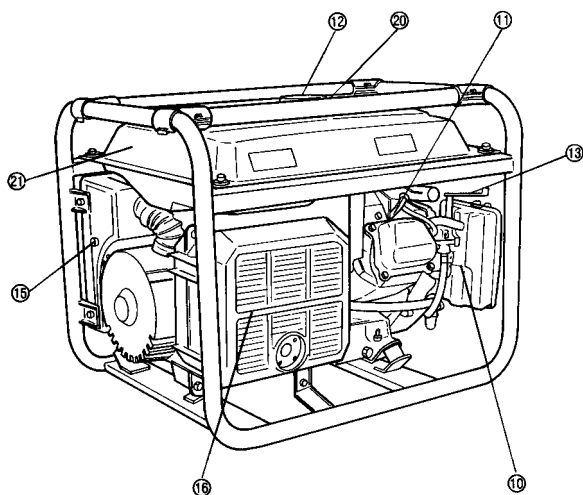
⑰直流出力端子

⑱直流サーキットプロテクター } MGE1501
MGE2501
を除く

⑲アイドルスイッチ

⑳燃料計

㉑燃料タンク



各部の取り扱い－ 1

①交流コンセント

(MGE1501, 2501を除く)

一度に多くの電流を取り出せるコンセントです。

差し込みプラグは、大型差し込みプラグを使用して下さい。

⚠ 注意

コンセントプラグは接触不良、抜け、ゆるみがない様に確実に差し込んでください。

②電圧計

発電された電気の電圧を表わすメーターです。

③オイル警告灯 (オプション)

エンジンオイルが不足した時、又は入っていない時に点灯するランプです。

⚠ 注意

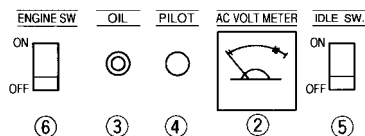
- エンジンオイルが不足すると警告ランプが点灯しエンジンは自動的に停止します。オイルを補給して再始動してください。
- 起動しない場合にも2～3回リコイルスタータを強く引けば点滅します。

④パイロットランプ

電気が発電されていることを示します。

点灯……発電中

消灯……停止



⑤アイドルスイッチ

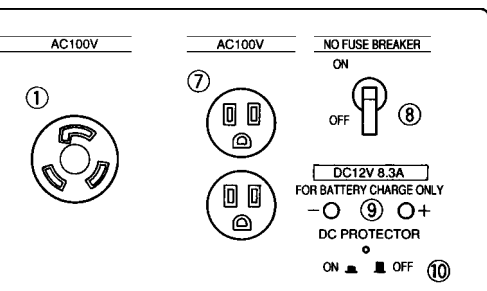
(MGE1501, 2501を除く)

エンジン回転を自動的に調整したいときに操作します。スイッチを「ON」にすると電気を取り出していないときは、自動的にエンジン回転が下がります。

始動、暖機時とエンジン回転を下げる必要のないときは、スイッチを「OFF」にします。

⑥エンジンスイッチ

発電機を始動、停止させる時に操作します。



図は MGE4100 を示す。

⑧交流ノーヒューズブレーカー

使用範囲を越えて使用したり、使用器具に異常があった場合、回路をしゃ断して発電機を保護する役目をします。

ON 電気が出せる

OFF 回路がしゃ断されて電気が出せない

⚠ 注意

発電機の使用中にノーヒューズブレーカーが「OFF」の位置になった時は以下の項目を確認し、不具合の部分を解消後再びブレーカを「ON」の位置にしてください。

- 使用器具に異常が無い点検をしてください。
- 電気を取出し過ぎていないか確認をしてください。

⑨直流出力端子

(MGE1501, 2501 を除く)

12V バッテリー充電専用です。

⚠ 注意

接続配線は ⊕ ⊖ の極性を間違いなく接続してください。

⑦交流コンセント

交流電気を取出すコンセントです。

⚠ 注意

コンセントプラグは接触不良、抜け、ゆるみがない様に確実に差し込んでください。

⑩直流サーキットプロテクタ

(MGE1501, 2501 を除く)

バッテリー充電中に異常があった場合や電気の取り過ぎの時にスイッチが切れます。この様な場合電気を取り過ぎでないか、あるいは、接続配線に異常がないか確認してから、スイッチを「ON」にしてください。

各部の取り扱い-2

●燃料コック

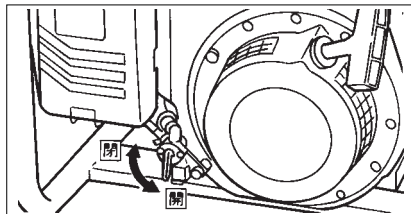
燃料を開閉するレバーです。

開

エンジン運転時の位置です。

閉

使用していない時の位置です。



⚠注意

発電機を運搬する時、保管をする時は、燃料コックのレバーを「OFF」の位置にしてください。

●チョークレバー

エンジン始動時エンジンが冷えている時操作します。

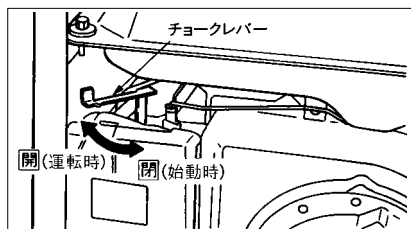
開

エンジン運転時の位置です。

閉

始動時エンジンが冷えて始動しにくい時の位置です。

始動後回転が安定してから**開**に戻します。



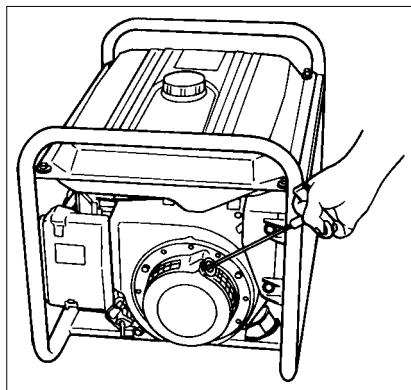
●リコイルスターター

エンジンを始動する為の装置です。

始動する時には、リコイルスターターグリップを手ぐたえのある所まで引き出しそこから勢よく引張ります。

⚠注意

- リコイルスターターの損傷を避ける為に、リコイルスターターロープを限界以上に引き出さないでください。
- リコイルスターターグリップはゆっくりと戻してください。
- エンジン回転中は、リコイルスターターグリップの操作を行なわないでください。



始業点検－１

⚠ 注意

- ・始業点検を怠ると、事故の原因となり、発電機に重大な損傷をあたえます。
- ・安全の為、常に発電機を良好な状態に保守してください。
- ・点検は、平坦な場所で発電機本体を水平にし、エンジンを停止して行ってください。

●燃料の点検、補給

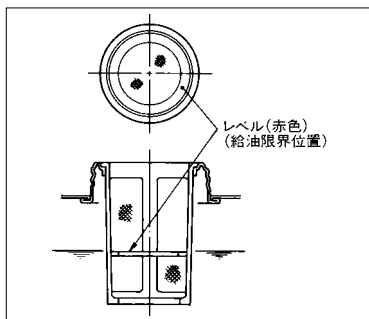
燃料タンクキャップを外して、燃料の残量を点検します。少ない場合は給油限界位置（赤レベル）を超えないよう補給してください。

燃料タンク容量（赤レベルまで）：

MGE1501, 2501 : 11 L

MGE3300～5800 : 18 L

使 用 燃 料：無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）



要 点

- ・燃料はゆっくりと給油してください。
- ・燃料は空になる前に、できるだけ早目に補給してください。

⚠ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発性があります。次の事項を必ずお守りください。

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。
- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- ・燃料はこぼさないように補給してください。こぼれたときは、ただちに布などで完全にふき取ってください。
- ・燃料タンクキャップは確実に締付けてください。

⚠ 注意

- ・燃料の給油時、燃料タンク内に水、雪等の水分及び塵埃、異物等が入らないように注意してください。また燃料フィルターを取外して給油しないでください。
- ・燃料は規定量以上（フィルターの赤レベル以上）給油しないでください。

始業点検-2

●エンジンオイルの点検、補給

オイルメンテナンスカバーとオイルフィルターキャップを外してエンジンオイルがオイルレベルゲージの上限（基準面）まであるか点検します。

少ない場合は、新しいオイルを基準面まで補給してください。

オイル量：

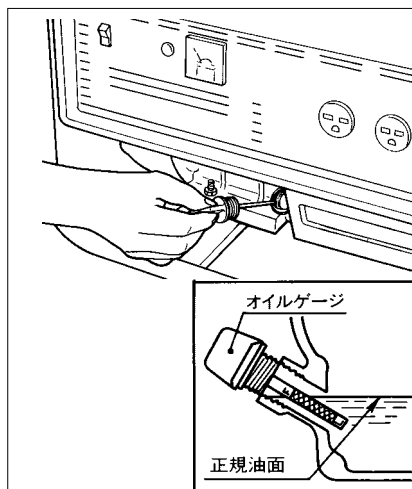
MGE1501, 2501 : 0.6 L

MGE3300～5800 : 1.2 L

推奨オイル：エンジンオイル

API分類SE級以上

SAE10W-30



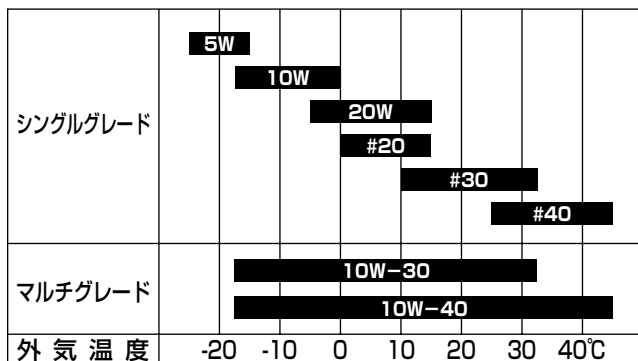
⚠ 注意

- エンジンを始動する前に、エンジンオイルの点検を必ず行ってください。

要 点

- オイルフィルターキャップは確実に締付けてください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- 寒冷時はAPI分類SE級以上のSAE5W又は5W-30オイルをご使用ください。

SAEオイル粘度表



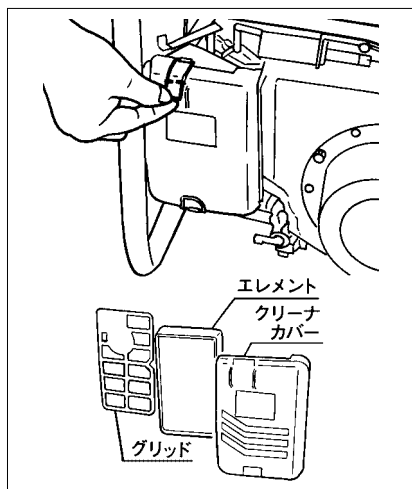
始業点検－3

●エアクリーナの点検

エアクリーナカバーを取外し、エレメントの汚れを点検します。汚れのひどい場合はエレメントの清掃をしてください。（清掃方法はやさしい点検、整備を参照）

要 点

- エレメントやエアクリーナカバーの取付けが不完全であったり、エレメントが取付けられていないと、エンジンの性能や耐久性に重大な悪影響をあたえます。
- カバーやエレメントは確実に取付けてください。



●その他の点検

各種取扱操作部の作動状態およびエンジンの調子を点検してください。

- エンジンスイッチの作動具合。
- リコイルスタータの作動具合およびスタータロープの損傷。
- エンジンの始動性および異音、排気色の状態。
- 交流コンセント、直流ターミナルの損傷。

●発電機周辺の点検

安全に御使用いただくため、発電機周辺の点検をしてください。

- 周囲に火の気や可燃物および危険部がありませんか。
- 建物および他の設置物から1 m以上離れていますか。
- 排気口は風通しの良い、広い場所に向けてあり換気は十分ですか。
- 設置場所は平坦で発電機が傾斜していませんか。

正しい運転操作－ 1

●エンジンの始動

⚠ 注意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料とオイルの量を点検します。
2. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。燃料コックを開にします。チョークレバーを閉にします。
エンジンが暖まっているときは開の位置にします。
3. リコイルスタータグリップを軽く引き出します。
リコイルスタータグリップが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを開始させます。

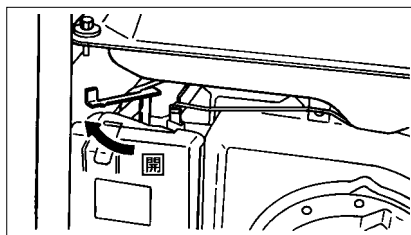
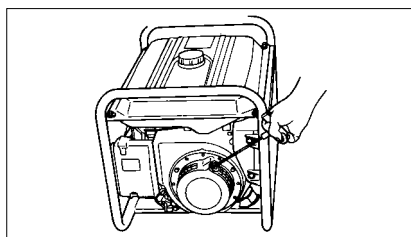
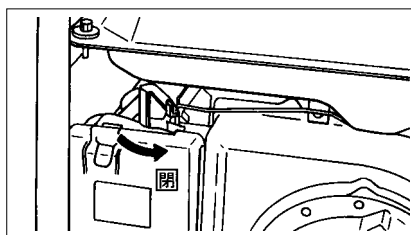
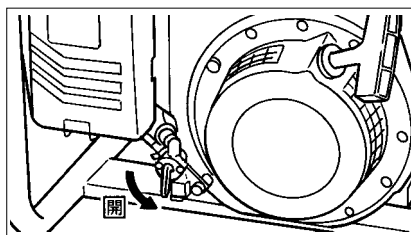
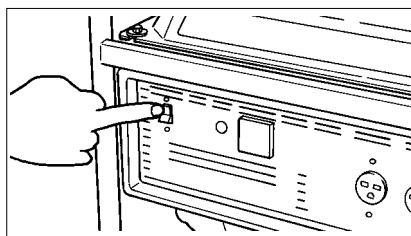
⚠ 注意

リコイルスタータグリップを戻す時はゆっくりと戻してください。

要 点

リコイルスタータグリップを数回引いてエンジンが始動しない時は、エンジンスイッチを運転の位置にしてリコイルスタータグリップを引いてください。

4. エンジン回転数が安定したらチョークレバーを開の位置にします。
5. しばらくの間暖機運転をします。



正しい運転操作－2

● 交流電気の取出し方

⚠ 警告

電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災あるいは人身事故、または本機や電気器具が故障する原因となります。

1. アース端子を接続します。

⚠ 注意

感電および発電機の損傷を防止する為、発電機のアース端子より必ず地面にアースをしてください。

2. エンジンを開始させます。
3. パイロットランプが点灯していることを確認します。
4. アイドルスイッチをONの位置に合せます。(MGE1501, 2501を除く)
5. 電気器具のプラグを交流コンセントに差し込みます。

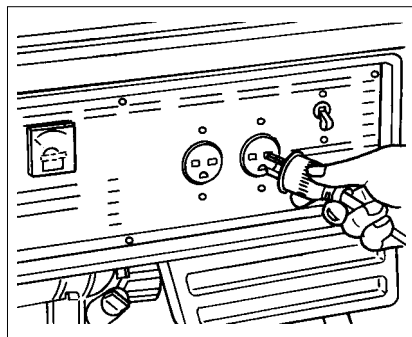
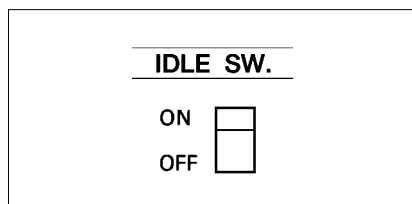
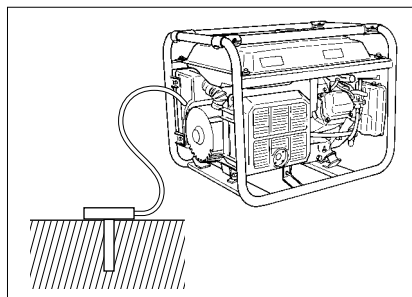
要 点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

⚠ 注意

- ・プラグは接触不良、抜け、ゆるみがないよう確実にコンセントへ差し込んでください。
- ・プラグは図のようなアース付3本足プラグを使用してください。

6. 電気器具のスイッチを入れます。



正しい運転操作- 3

● 直流電気の取出し方

12Vバッテリー充電専用です。充電以外には使用しないでください。

⚠ 警告

- ・バッテリーを取扱うときは風通しの良い所で火気を近づけないでください。またショートによる火花に注意してください。バッテリーは引火性ガスを発生するため爆発の危険があります。
- ・バッテリー液（希硫酸）が目、皮ふ、衣服に付くと失明やけがをひき起こすことがあります。取り扱いには十分注意してください。万一、付着したときは直ちに大量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
- ・バッテリーに接続されているコードを取外す時はマイナス ⊖ 側から外し、接続する時はプラス ⊕ 側から行ってください。誤るとショートする場合があります。

1. バッテリーに接続されているコードやチューブを取外します。

2. バッテリーの比重を測定し充電時間を決めます。

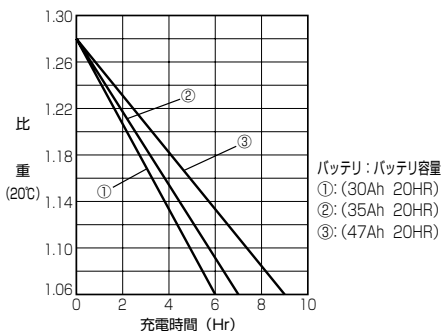
- ・バッテリーの液注入口栓を外し、バッテリー液量を点検します。バッテリー液が不足している場合は蒸留水を上限まで補充します。

- ・比重計でバッテリー液の比重を測定し、右の表により充電時間をもとめます。

満充電の比重は 1.26 ~ 1.28 です。バッテリーの種類、放電条件により充電時間が異なる場合があります。1 時間おき位に確認して下さい。

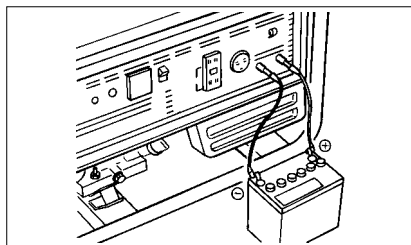
3. チャージコードで直流ターミナルとバッテリー端子を接続します。

比重と充電時間の目安



⚠ 注意

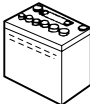
- ・バッテリーへの接続は必ず専用チャージコードを使用してください。
- ・チャージコードは ⊕ ⊖ の極性を間違わずに接続してください。誤って接続するとショートする場合があります。また発電機やバッテリーの故障の原因となります。



正しい運転操作－４

●交流、直流電気の使用可能範囲

交流、直流電気の使用は次の電気器具の使用可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上で使用ください。

使用器具		機種	使用可能範囲		摘 要
			50Hz	60Hz	
交 流 (A C)	照明・電熱器・ テレビ・ラジオ など 	MGE1501	1200Wまで	1500Wまで	•使用可能範囲以下でも起動電流の多い製品やモーターの種類によっては使用出来ない場合があります。 •使用可能範囲を越えた電流を使用した場合又は使用器具に異常があった場合はサーキットブレーカーがOFFになります。
		MGE2501	2200Wまで	2500Wまで	
		MGE3300	2800Wまで	3300Wまで	
		MGE4100	3300Wまで	4100Wまで	
		MGE5000	4200Wまで	5000Wまで	
		MGE5800	5100Wまで	5800Wまで	
	単相モーター類 	MGE1501	400Wまで	500Wまで	
		MGE2501	800Wまで	900Wまで	
		MGE3300	900Wまで	1100Wまで	
		MGE4100	1100Wまで	1300Wまで	
		MGE5000	1400Wまで	1700Wまで	
		MGE5800	1700Wまで	1900Wまで	
直 流	バッテリー 	MGE3300	12V-8.3Aまで		
		MGE4100			
		MGE5000			
		MGE5800			

⚠ 注意

- 電気器具の合計負荷が発電機の使用可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 電動工具・汎用モーター類の一部には使用可能範囲内であっても起動電流が大きい場合、または電気器具の状態により使用できないことがあります。

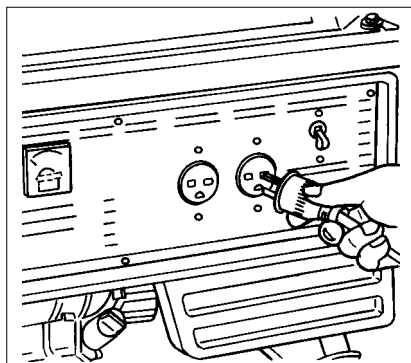
要 点

使用可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流プロテクタがOFF（切）になります。

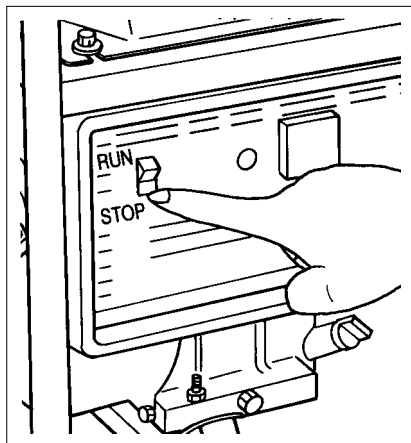
正しい運転操作－5

●エンジンの停止

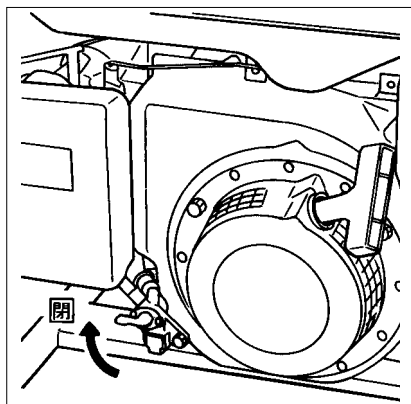
1. 電気器具のスイッチをOFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。



3. エンジンスイッチを停止の位置にします。



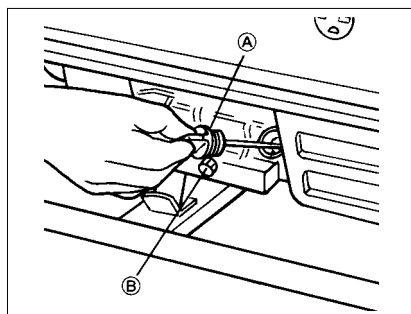
4. 燃料コックを閉（止）にします。



やさしい点検・整備- 1

●エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し2～3分間暖機運転をします。
2. エンジンを停止します。
3. オイル給油キャップ①を外します。
4. ドレンボルト②を外してオイルを抜き取って下さい。
5. ドレンボルト②をしっかり締めて下さい。



要 点

初回は20時間目、その後は100時間毎に交換してください。

6. 新しいオイルをオイルレベルゲージの上限（基準面）まで給油します。

オイル量：

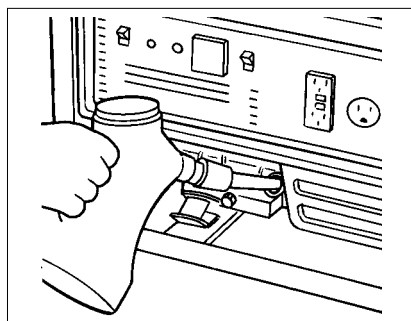
MGE1501, 2501 : 0.6 L

MGE3300～5800 : 1.2 L

使用オイル：エンジンオイル

API分類SE級以上

SAE10W-30



要 点

- ・エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行なってください。
- ・こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

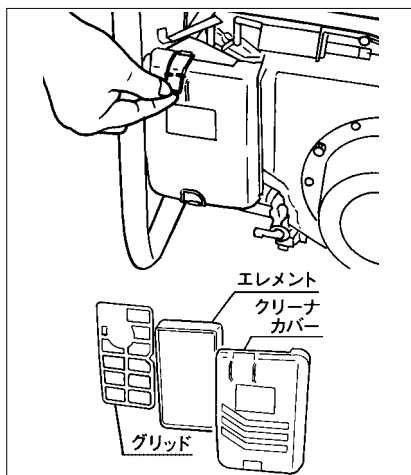
7. オイル給油キャップを締め付けます。

やさしい点検・整備-2

●エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナが汚れていたり、エレメントが目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなりますので定期的に清掃してください。

1. エアクリーナカバーを外しエレメントを取出します。
2. エレメントを洗い油でよく洗浄し乾燥後きれいなエンジンオイルに浸し、固く絞ります。



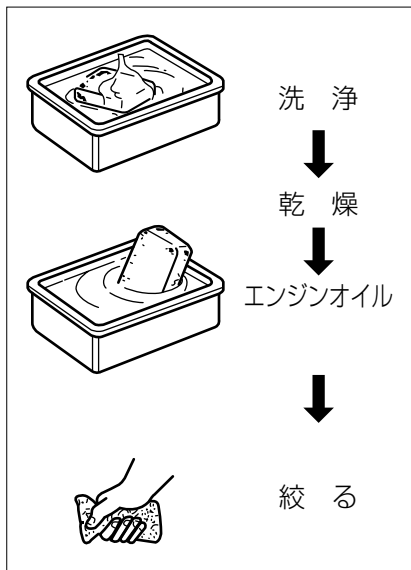
⚠ 警告

- 洗い油は引火しやすいので、火気を近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
- 洗浄は換気の良い場所で行ってください。

3. エレメントをケースに納め、エアクリーナカバーを組付けます。

要 点

- エレメントやエアクリーナカバーの取付けが不完全であったり、エレメントが取付けられていないと、エンジンの性能や耐久性に重大な悪影響をあたえます。カバーやエレメントは確実に取付けてください。
- 50時間運転毎に定期清掃してください。ほこりのひどい場所で使用した場合は、定期時期より早めに清掃してください。



やさしい点検・整備－3

●スパークプラグの点検と清掃

スパークプラグの電極が汚れていたり、摩耗するとエンジン不調の原因となります。定期的に点検、清掃してください。

⚠ 注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、スパークプラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないようエンジンが冷えてから点検してください。

1. スパークプラグメンテナンスカバーを取外しスパークプラグキャップを外します。
2. 付属のプラグレンチを使用し、スパークプラグを外します。
3. スパークプラグの焼け具合を点検します。通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検してください。
4. 電極付近の汚れ（カーボン）を落します。
5. 電極隙間を点検します。
指定スパークプラグ：

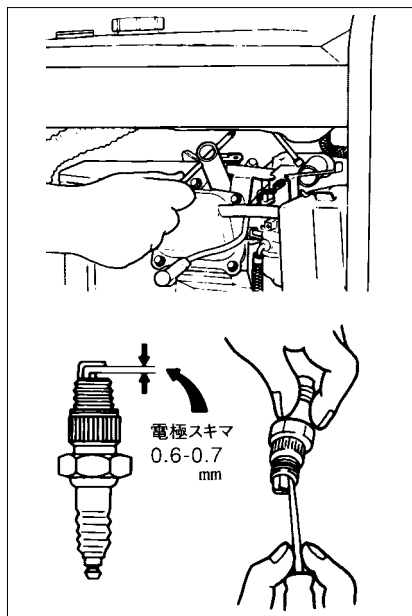
MGE1501, 2501 : BPR6HS

MGE3300～5800 : BPR5ES

電 極 ス キ マ : 0.6～0.7 mm

点検・清掃時期：100時間運転毎

6. スパークプラグを取り付けます。



要 点

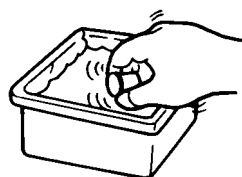
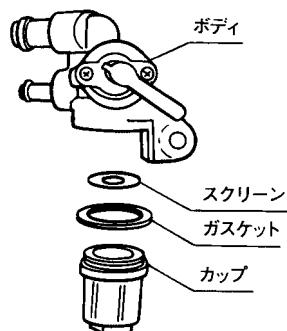
- スパークプラグの取り付けはネジ山を壊さないように、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使って確実に締め込んでください。
- エンジン故障の原因となるので指定以外のスパークプラグを使用しないでください。

やさしい点検・整備－４

●燃料ストレーナーの清掃

燃料ストレーナー内に水やゴミが溜るとエンジン不調の原因になりますので、定期的に清掃して下さい。

1. コックレバーを閉にする。
2. ストレーナーカップを取外します。
(反時計方向)
3. ストレーナーカップを洗油でよく洗います。
3. 洗浄後カップを取付け、よく締め付けておくこと。(時計方向)



⚠ 注意

- 燃料ストレーナーの点検及び清掃を行う時は、必ずエンジンを停止した後に行ってください。
- 燃料ストレーナーの点検及び清掃を行う時は、火気厳禁です。喫煙をしたりしてはいけません。又、火気及びスパークを近づけてはいけません。
- 燃料の漏れは火災、爆発の原因となります。燃料ストレーナー部より燃料漏れが生じている時は、その部分は必ず整備を実施してください。
- 燃料ストレーナーの点検及び清掃を行う時は、燃料タンク内の燃料の漏れを防止する為に、燃料コックのレバーを「閉」の位置にしてください。
- 燃料ストレーナーの点検、清掃後は燃料コックのレバーの開閉が正しく作動することを確認してください。又、燃料ストレーナー部分より燃料漏れが生じていないか必ず点検をし、燃料漏れが生じている部分は必ず修正をしてください。

定期点検と長期保管

●定期点検

発電機の故障と事故を未然に防ぎ、安全にご使用いただくため定期的に点検を実施してください。

⚠警告

- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラ周辺などは非常に熱くなっています。やけどをしないようエンジンが冷えてから点検してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきった室内や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はしないでください。

点検項目と時期

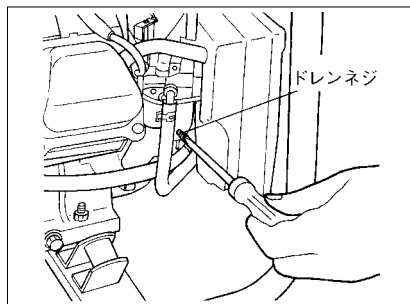
点 検 整 備 項 目		点 検 時 期				
		始業時	初 期 20時間毎	3カ月又は 50時間毎	6カ月又は 100時間毎	1年又は 300時間毎
燃料	漏れ、量の点検	○				
燃料タンクフィルター	清掃			○		
燃料ストレーナー	交換					●
燃料パイプ	亀裂、点検					●
エンジンオイル	漏れ、量の点検	○				
	交換		○		○	
エアクリーナエレメント	点検	○				
	清掃			○		
スパークプラグ	点検、清掃				○	
リコイルスタータ	作動、ロープの損傷	○				
スイッチ類、操作パネル電装品	作動、損傷	○				
本体各部の締付部	点検、締付				●	
シリンダヘッド	カーボンの除去					●
バルブクリアランス	点検、調整					●

●印の点検、整備は販売店またはサービス店に依頼してください。

●長期保管

長期間運転しない場合、または長期間保管する場合は次の手入れを行なってください。

- 各部をきれいな乾いた布で清掃します。
- エンジンオイルを交換します。
- エアクリーナを清掃します。
- キャブレター内のガソリンを抜きます。
燃料タンク内の燃料を抜きとったあとキャブレターのドレンネジより燃料を排出してください。
- リコイルスタータを引張り、重くなった所で止めておきます。



⚠注意

- 長期保管の整備を行う時は、火気厳禁です。火気を近づけないでください。
- 長期保管の整備を行う時は、換気の良い場所で行ってください。
- 抜き取った燃料は、適切な処理をしてください。

故障診断

故障の多くは不十分な点検や取り扱いの不慣れに起因しています。
故障が生じた場合は下記により点検し、なお異常のあるときは、できるだけそのままでの状態でお買いあげの販売店にご相談ください。

● エンジンが始動しない

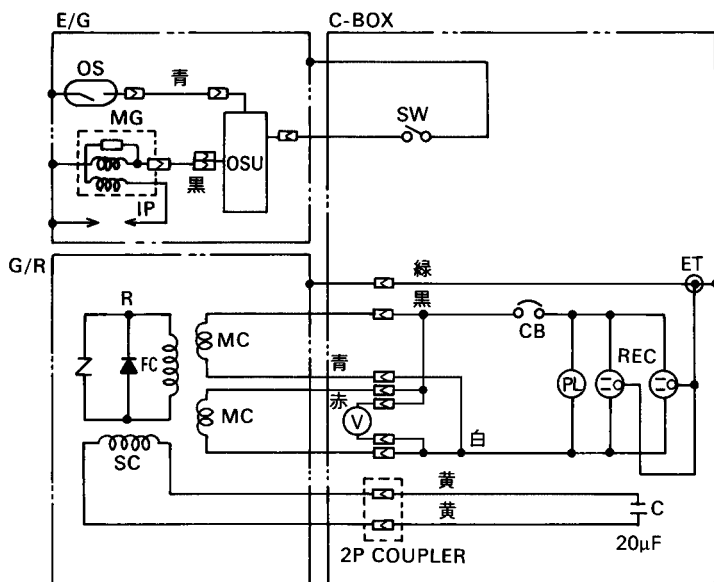
原 因	対 処
• 燃料が空になっている。 • 燃料パイプが目詰りしている。 • 燃料ストレーナが目詰りしている。 • キャブレタが目詰りしている。 • スパークプラグが汚れている • スパークプラグの電極スキマが正常でない。 • エンジンオイルが不足している。	• 燃料を補給する。 • 燃料パイプを清掃する。 • 燃料ストレーナーを交換する。 • キャブレタを清掃する。 • スパークプラグを清掃し乾燥させる。 • 電極スキマを正常値に調整する。 • エンジンオイルを補給する。

● 電気が取出不い

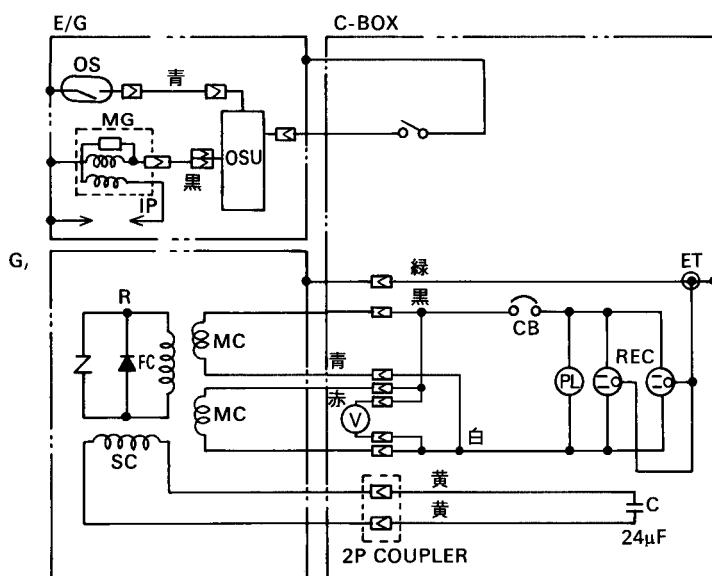
原 因	対 処
• 交流、直流プロテクタがOFF（切）になっている。	• 交流、直流プロテクタをON（入）にする。
• 使用電気器具の消費電力が発電機の使用範囲を超えている	• 使用範囲内の電気器具を使用する。
• 差し込みプラグとコンセントの接触が不完全。	• 電気器具の差し込みプラグを確実にコンセントに差し込む。

配線図-1

MGE1501

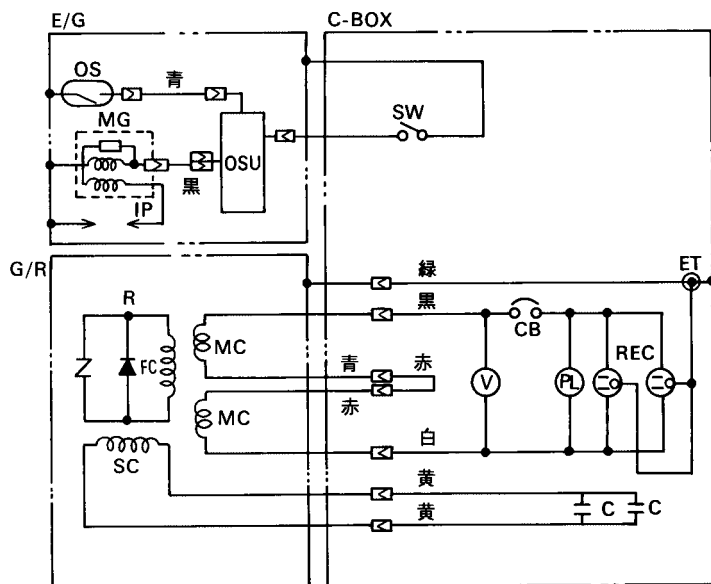


MGE2501

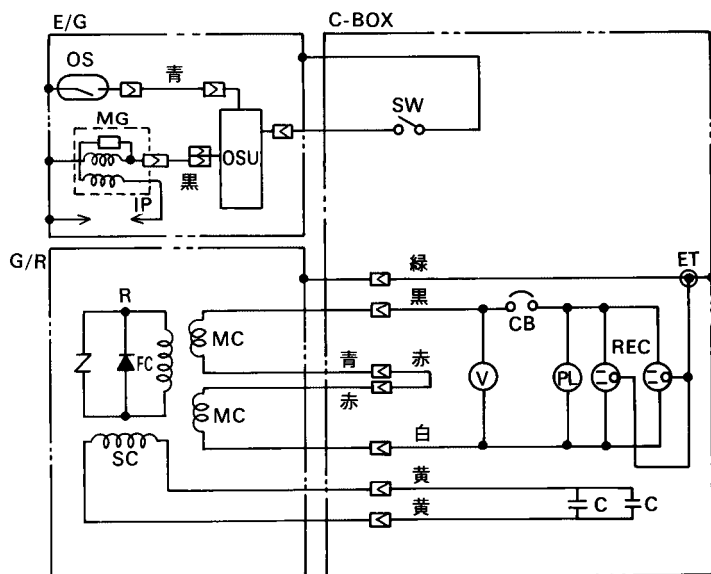


配線図-2

MGE3300,MGE4100



MGE5000,MGE5800



記号	品名
E/G	エンジン
G/R	ジェネレータ
C-BOX	コントロールボックス
MC	交流巻線
SC	補助巻線
FC	界磁巻線
R	ローターCP
OSU	オイルセンサーユニット
LED	発光ダイオード
ET	アースターミナル
PL	パイロットランプ
REC	ACリセブタクル
V	電圧計
CB	ACノーヒズブレーカー
C	コンデンサ
CP	DCサーキットプロテクタ
SW1	ストップスイッチ
SW2	スローダウンスイッチ
SOL	ソレノイド
F	ヒューズ
SD	スローダウン
DC	直流巻線
DS	ダイオードスタック
MG	フライホイールマグネット

「三菱メイキエンジンの排出ガス自主規制」について

三菱重工業株式会社は、2003年1月以降に生産され、国内に販売、使用されるエンジンに対し、(社)日本陸用内燃機関協会（陸内協）が決めました 小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）、及び一酸化炭素（CO）を低減する自主規制に賛同、これに積極的に参加運用し、社会的ニーズであります環境保全に貢献すべく取り組んでおります。



- 1) 本規制に適合しているエンジンを識別するため陸内協で決定した自主規制適合ラベル（右図）をエンジン外面に貼付してあります。
 - ＊エンジンの使用期間中は本ラベルを剥がさずに御使用下さい。
- 2) 本エンジンは排出ガスの排出量が規定値内となるよう管理され、工場出荷されておりますが、運転中の吸入空気と燃料との混合比に影響する気化量の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合 排出ガス量は規定値を外れることがあります。
 - ＊各エンジンの取扱説明書にしたがった点検・整備を実施して下さい。
 - ＊気化器調整、部品交換が必要な場合には 販売店又は三菱メイキエンジンサービス指定店に御相談下さい。

MEMO



産業機器事業部 メイキエンジン部営業課
〒453-8515 名古屋市中村区岩塚町高道1番地
TEL (052) 412-1145 FAX (052) 412-7811

2003.6